

活用ナビ

①【ねらい】大工場と中小工場のちがいを知り、それぞれの特色を考える。

※事前に課題と大工場と中小工場の定義をおさえておく。

②●題、出典を読みましょう。帯グラフで合計が100%です。

- 各項目について、「工場数」「働く人の数」「生産額」の順で、読み取ったことを書きましょう。

※発表の際に思ったことも付け加えさせる。

③●題、出典を読みましょう。帯グラフで合計が100%です。

- 大工場、中小工場のそれぞれの割合が高い工業は何でしょうか。
※発表で読み取りを確認する。
- どうして、それらの工業が大工場、中小工場で割合が高いのか。予想してみましょう。

④●とのグラフから、どんなことがいえるでしょうか。

※一つのグラフからいえることだけでなく、二つを関連づけている発言を積極的に取り上げたい。

※既習内容と関連づける。

※P157の内容について読み取る。

⑤●大工場、中小工場のそれぞれの特色をノートにまとめましょう。

5年-13

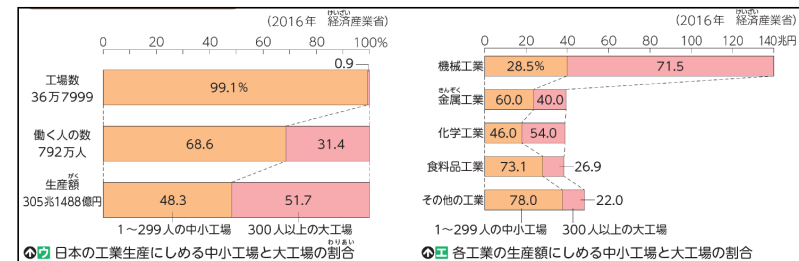
3-3 日本の工業生産の今と未来
大工場と中小工場のちがい

P156～P157

名前

5年組番

①【ねらい】大工場と中小工場のちがいを知り、それぞれの特色を考える。

②【基本】のグラフを見よう。

- ・題、出典、何のグラフかを確認しよう。
- ・各項目で読み取ったことを書こう。

③【基本】のグラフを見よう。

- ・題、出典、何のグラフかを確認しよう。
- ・大工場、中小工場、それぞれの割合が高い工業は何だろうか。

・工場数、働く人の数、生産額の割合が高い工業は、

大工場は1%もない。

・大工場は、働く人が30%以上、生産額が50%以上で、工場数の割合とは違う。

・中小工場では、食品工業、金属工業の割合が高い。特に食品工業。

・大工場では、機械工業、化学工業の割合が高い。特に機械工業。

・食品工業は中小工場が、機械工業は大工場が生産しやすい。

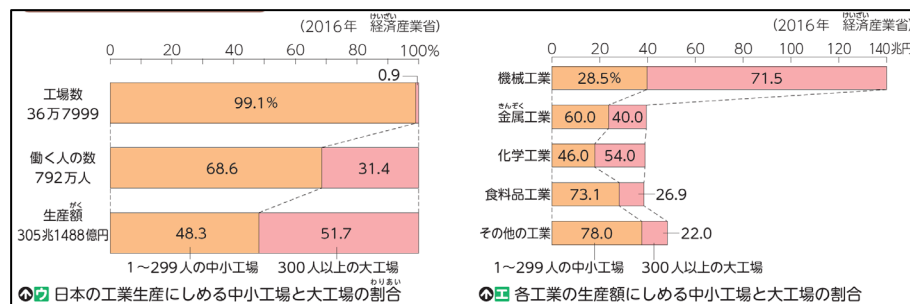
④【ポイント】読み取ったことからどんなことが言えるでしょうか。

- ・大工場は、工場数が少ないけど、一つの工場で働く人の数も多く、生産額も多い。
- ・大工場は、機械工業の生産額の割合が高い。大きな設備をもつ自動車工場が代表。
- ・日本の工場のほとんどは中小工場であり、日本の工業を支えている。

⑤大工場と中小工場のそれぞれの特色をまとめよう。

©社会科資料読解ワークシート開発プロジェクト（東北学院大学 佐藤正寿，教育出版株式会社，株式会社教育同人社）2020

資料の読解



アのグラフは、日本における大工場と中小工場の生産状況の違いを表したものである。

工場数では圧倒的に中小工場が多く、大工場は1%にも満たない。しかし、働く人や生産額は、それぞれ大工場が3割、5割となっており、工場数との違いが際立っている。この違いを読み取らせ、その理由は何なのかを考えさせたい。

そのヒントとなるのが、イのグラフにある各工業別の大工場と中小工場の生産額の割合である。中小工場の割合が高いのが食料品工業、金属工業である。それに対して、機械工業や化学工業は大工場の割合が高い。特に、食料品工業と機械工業はその違いが大きい。エのグラフと関連づけながら、読み取らせたい。

読解の方法

- 最初にエのグラフを読み取らせる。題と出典、各項目、割合等の基本項目を確認したうえで、工場数について話し合わせる。圧倒的に日本では中小工場の割合が高いことがわかる。しかし、働く人の数や生産額では、大工場の割合が工場数に比べたら高い。その理由について推測させる。
- 続いてイのグラフを読み取らせる。アと同様に基本項目を確認したうえで、中小工場と大工場のそれぞれの割合が高い工業を発表させる。そのうえで、「食料品工業はなぜ中小工場の割合が高いのか。」「機械工業はなぜ大工場の割合が高いのか。」と問い、それぞれの工業生産の特色について発表させる。
- 教科書には、中小工場の技術力の高さが紹介されている。その内容を関連づけて、大工場と中小工場の特色をまとめさせる。